



工学院大学附属中学校・高等学校

工学院大学附属中学校・高等学校は **21世紀型教育**を導入している学校として、受験生からの人気が年々高まっています。そんな同校が、日本で初の **Cambridge English School***として認定を受けました。

どのようないきさつで **Cambridge English School** を目指したのか、実際の学校現場ではどのような授業が行われているのか、英語科の中川先生に伺いました。

ケンブリッジ大学出版 (以下ケンブリッジ) : 中川先生、まず **Cambridge English School** の認定を受けようと思われたいきさつを教えてください。



今回インタビューを行った中川先生。関西弁でハキハキ話されるとも魅力的な先生です。

工学院 (中川先生) : 変容する社会を切り開くことのできる人材を育成するためです。すなわち、授業を変え、英語力と共に思考力を伸ばすためです。まず、ケンブリッジ大学出版の教材を活用し、オールイングリッシュによる世界標準の **ESL** 授業を展開することができます。そして、その成果を教材に準じた国際標準により測定することができます。4技能習得はもちろんのこと、教材から世界各地の事象を知ること、地球市民としての視野を養うこともできます。教員サポートが充実していることも魅力です。





ケンブリッジ: 実際に認定を受けるまでに学内・学外からの反発はありましたか？どのような準備を経て Cambridge English School 認定に至ったのでしょうか。

工学院 (中川先生): 新しいことをする際には、未知への不安からくる反発がつきものです。しかし、社会は変容し続け、私たちも変容が必要です。改善のため、人は体験したことがないものに挑戦し、よりよいものへ変わっていく必要があります。Cambridge English School の認定は教育改革の表れです。そこで、英語科だけでなく学校全体のマインドセットを 21 世紀型および Growth Mindset にするために、勉強会やワークショップを実施しました。



白板の前で議論の中心となっているのは生徒さんです。

ケンブリッジ: 認定を受けてから、何か変わりましたか？現在の英語教育プログラムを教えてください。

工学院 (中川先生): 授業内での 4 技能習得はもちろんのこと、PIL と PBL による学習者中心の活動となりました。知らない事象を知るために読んだり聞いたりする、コミュニケーションの根本を重視した活動を実施しています。ケンブリッジ大学出版の教材は日本で学習する生徒だけではなく、全世界の学習者を対象としているため、内容に多様性があり、世界と日常的に繋がる授業となりました。英語を通して世界を知る CLIL 型、教科横断型授業といえるでしょう。



現在は教材と学校行事を絡めたプロジェクトも数多く実施しています。結果、生徒間でのコミュニケーションが多く発生し、アウトプットに強い生徒を育成するプログラムとなりました。表現するためには考えることが必要ですので、英語教育を通して、生徒自身が自分で考え決定し行動する自立を促しています。私共教員は、英語科会議は英語で実施し、会議内で教員対象のワークショップをしています。



ケンブリッジ: 中川先生はご自身で **CELTA** を取得され、それを実際の授業で活かされていると伺いました。英語がゼロの中学1年生に **CELTA** の手法を使って全て英語で教えているそうですが、生徒さんの反応はどうか。

工学院 (中川先生): 英語を日本語で学んだ世代にとっては、英語だけで英語を学ぶことは難しいと捉えがちです。従来の講義形式の授業を英語で全て実施すれば、それはつまらない難しいものとなるでしょう。私が実施するのは、教員中心の講義形式ではなく、学習者中心の授業です。学習者が活動を通して学ぶ授業です。

私共教員は、簡単に、短く、はっきりと指示を出し、生徒を活動に導きます。このような手法で英語を英語で教えることは、全世界的に見て珍しいことではなく、むしろ標準です。さらに私共は、授業内のひとつひとつの活動に繋がりに関連を持たせ、ひとつの学びにつながるように授業を組み立てています。生徒は授業で自ら考え、協働でタスクを完結することで、自己肯定感が向上しています。



ケンブリッジ: 今後貴学が目指す英語教育を教えてください。

工学院 (中川先生): 現在、工学院英語科の目標は“**Raise Independent Learners**”です。自立した学習者とは、自分で考え行動できる生徒です。国際標準の教材と手法で、**CEFR C1** の国際言語としての英語習得を目指しています。英語教育を通して、未知のものに挑戦、貢献するための創造力と思考力を育成します。



*「Cambridge English School」とは、ケンブリッジ大学出版発行の教材を採用し、英語学習の成果をケンブリッジ英語検定で測定する学校のうち、学校全体で英語力向上に取り組むことに関し、3カ年計画のコミットメントを約束した学校を対象とするスキームです。スクールの認定については、Cambridge English を提供するケンブリッジ大学出版局とケンブリッジ大学英語検定機構が3カ年計画の内容をもとに審査します。

認定を受けると、英語の職能開発のためのオンラインプログラム Cambridge Teacher Development の一部を無償で受講できる等、魅力的な特典が用意されています。

工学院大学附属中学校・高等学校では、現在ケンブリッジ大学出版発行の Uncover をメイン教材として使用いただいています。

